

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191600087		
法人名	株式会社シンエー		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	埼玉県上尾市須ヶ谷一丁目79番地1		
自己評価作成日	令和元年12月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和2年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかで良かったと思っただけで、介護度が高い方でも安心して生活していただけるように職員一同取り組んでいます。また、できることは無理のない範囲でやってもらい、生活の中に役割を持ってその人らしく生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・入居者一人ひとりへの個別支援を重視しながら、「できることはやっていただく＝自立への介護支援」に事業所全体で取り組まれ、食事作りへの入居者の参加や外出機会を増やすなどに様々な工夫が図られている。さらに入居者の「非言語的な訴え」を読み取れるよう密度の濃い関わりを持つよう努められている。
- ・運営推進会議には、自治会長や家族、市の担当者、介護相談員にも参加をいただき、定期的に関係されるほか、地域の他サービス事業所との合同運営推進会議に参加し、それぞれの事業所の取り組みや地域の特性を話し合うことで、より地域に即した運営に役立てられている。
- ・平成30年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害発生時の地域との連携に取り組まれ、運営推進会議を通して避難訓練を実施し、地域との協力体制の重要性を再確認できたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議を通して職員間で共有するよう努め、施設が向かうべき方向性の指針としている。	入居者の尊厳を守り、「その人らしくいられる支援」のために部署ごとの細やかな情報共有を図ることで現場の意思統一が行われている。押し付けにならないケアを目指し、新任職員はリーダーに付いて方向性の理解に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、地域の清掃活動、避難訓練等活動に参加している。また夏になると近所の野菜直売所で野菜を購入している。また地主さんが目の前で野菜を作り、時期になると沢山の野菜を頂いている。	自治会活動を中心に地域連携に取り組まれ、地域の清掃活動や避難訓練への協力、事業所の夏祭りや避難訓練に参加をいただくなど相互交流が図られている。また、歌やハーモニカ演奏などの地域ボランティアの受け入れも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などを活用して、認知症への理解や支援の方法を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。活動の報告や意見を伺う場としているほか勉強会なども開催し、実際のサービスに反映している。	自治会長や家族、市担当者以外に介護相談員にも参加いただき、日常の活動報告のほか防災についての話し合いや感染症の勉強会などが行われている。外部の見識者からの意見は事業所職員に伝えられ、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政開催の事業所を対象とした会議への参加や運営推進会議への参加依頼、生活保護の方の情報共有、介護相談員の受け入れなど行っている。	市担当者や介護相談員に運営推進会議へ参加をいただき、地域情報や事故報告のやり取り、生活保護に関する相談など、アドバイスをいただき日常的に連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きに従い研修を行い、職員全員が行わないことを宣言し、ポスターを掲示している。	車椅子利用の入居者が多いことから「危ない」を理由に行動の制限にならないよう努められている。ミーティングや申し送りでは「これはどうなのか」、「スピーチロックになっていないか」など職員間で検討され、拘束に頼らないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びリーダーは、虐待がいけないことであることの認識を日々の申し送り等の場面で伝え、入居者が安心して生活が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、認知症高齢者の自立支援として必要な制度であることから、パンフレットを回覧するなど制度を知る機会を設けている。また家族に対し必要であれば情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前より話を伺い、十分な説明を持って締結している。改定時なども連絡を取り、了解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃の会話の中から、家族からは来所時に聞き取りなどを行い、上司へ報告し、運営に反映させている。	入居者からは「何か仕事をしたい」などの申し出が出され、機会を見つけて対応するよう取り組まれている。家族とも面会や運営推進会議を通して話を伺い、こちらが気付かないことを教えていただくなど、サービスの向上に繋がられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な会話や会議、個人面談を行い、運営に反映させている。	職員からは現場で意見を出し合ったり、ミーティングで「こんな時はどうしたらいいか」などの発言も多く、管理者も職員の話を受け止め共感するなど、現場の意見・提案が活かされるようコミュニケーションが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、定期的に職員面談を行い、健康状態や家庭の事情等を把握し、個々の生活スタイルに出来るだけ合わせよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、研修を行っている。また資格取得支援規程を設けたり、研修等の希望に合わせ勤務に関しても配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ外部の研修に参加を促し、そういった場において情報交換できるよう心がけている。また、関係する事業所と交流する機会を設けられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実施調査には、管理者、計画作成担当者、リーダー、看護師(必要に応じて)が対応していて、不安や要望などの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実施調査には、管理者、計画作成担当者、リーダー、看護師(必要に応じて)が対応していて、不安や要望などの把握に努めている。気になった点は、施設側からも連絡を取り、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族への聞き取りを行い、判断してサービス利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で担えることをやってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活を送る中で必要なもの、ことをお願いしたり、受診への協力を依頼することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来訪や手紙の取り次ぎを行っている。	近所に住まれていた友人が来られたり、家族とお墓参りや自宅に戻られたりと馴染みの関係が継続されることに職員も積極的に関わるよう努められている。ボランティアや介護相談員の方と親しくなるなど新たな馴染みも作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極め、相互に関わられること(家事、レクなど)を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされてもその先の施設に対し情報の提供を行ったり、家族が遊びに来るなど家族との関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを通じて、申し送りや会議で情報を共有し、本人本位に寄り添えるよう努めている。	入居者の「非言語的な訴え」を読み取れるよう密度の濃い関わりを持つよう努めることで、思いや意向の把握に繋がられている。入居者の言動に「今のはなんだろう」と考え、家族からの情報も取り入れながら、一人ひとりへの対応に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への日々のコミュニケーションから情報を収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子、バイタル測定の状態、援助に入る際の反応を記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向をもとにサービス担当者会議で話し合い、具体的なサービス内容が盛り込まれた介護計画を作成している。	作成時、入居者・家族から要望を伺い、サービス担当者会議を経てケアプランが作成されている。「入居者の言葉」がそのままプランに反映され、入居者の生活に合わせたわかりやすい具体的な表現にこだわると取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに記録をまとめており、会議での利用者情報の共有や介護計画の見直しに活用している。介護計画の支援内容も介護記録に記載されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって通院を行ったり、お墓参りや外食と一緒にいくなど個々の希望を叶えることが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にある医療機関と連携し、急な体調不良等に対応して頂く、またお花見やイチゴ狩り、ホームセンター等地域で生活が楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは24時間体制での連携が取れており、定期的な訪問のもと病状把握、情報共有を図っている。	協力医療機関の往診とかかりつけ医の継続で日常の健康管理対応が行われている。また、家族同伴でのかかりつけ医への受診に際しては、ケア記録やバイタル表を持参いただき、医師からの情報は申し送りで職員に共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や気づきを報告し、情報を共有しながら必要に応じて指導を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やソーシャルワーカーと入退院の相談を行い、家族の意向も踏まえつつ調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を伺いながら話し合いの場を設け、家族が思うこと、施設ができることのすりあわせを行っている。必要に応じて主治医も交える。	入居者の状態や家族の考えの変化に応じて、主治医を含めて家族、管理者、介護リーダーでの話し合いが行われ、今後のケアの方向性を定められている。看取りも行われ、看護師や職員は「旅立たせてあげたい」との気持ちで対応され、家族からも感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。看護師から応急対応の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。また、運営推進会議の開催時に行うこともあり、区長、民生委員、包括支援センター、介護相談員などへの参加依頼も行っている。	自事業所の環境から火災への対応が最優先と考え、夜間も含めた訓練や2階から車椅子の入居者を下に降ろす訓練などが実施されている。また、自然災害発生時の避難場所、避難のタイミングなどはマニュアル化され備えられている。	今回の台風では実際の避難には至りませんでした。今後、予測を超える風水害の発生も想定されます。「こんなときどうするか」の判断を常に考え、より確実な防災・避難方法の確立と訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時できるだけ同性介助で対応できるよう配慮している。	排泄時や入浴介助時には入居者の羞恥心に配慮し、同性介助や他の人の眼を十分に気を付けるなど基本的なプライバシーは守られている。入居者の記録の記載もスタッフルームで行うなど個人情報の扱いや保管も適正に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択肢を持てるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう支援に努めているが、フロアの介護度が上がってきていて時間に追われる場面も出てきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理美容を行い、爪きりなどの整容にも注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器やテーブルを拭いてもらったり、できる範囲の中でやってもらっている。行事食や外食などいつもと違った食事をする機会も設けている。	一品ごとに小鉢に盛り付けられ、見た目にもこだわり、食器も入居者の好みで選んでいただき、食事前には蒸しタオルで顎のマッサージをするなどの支援がなされている。恵方巻きやケーキなどをイベントごとに皆で作り、食事を楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に応じた食事形態の工夫、好みに応じた水分の提供などしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは欠かさぬよう支援し、入れ歯の管理・消毒も職員で行っている。週1回訪問歯科も入っており、治療や口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	要介護度が高い人もできるだけトイレでの支援を心がけている。場合によっては職員2名で対応している。	入居前に車椅子でオムツ使用だった入居者に声かけやリハビリ支援を行うことで歩くことができるようになり、布下着に替わるなど自立への取り組みがなされている。失敗された時もさりげなく対応するなど、入居者に安心していただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力排便が難しい人には腹部マッサージをしたり、乳製品を摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある方にはタイミングや日をズラすなど柔軟に対応している。	週3日を基本に、お湯の量や順番などの希望、入浴日を変更するなどして応えられている。また、入居者の状況に合わせて職員二人対応をするが、原則は1対1の個浴で、プライバシーや羞恥心への配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた室温調整、寝具交換を行っている。冬場は加湿にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬情がケア記録とセットになっており、すぐに確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を見極めながら、生活の中に役割を持ってもらうよう意識して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの支援を行い、困難な方には外気浴で外の空気を感じてもらおう支援をしている。	外気にあたって季節を感じていただくことを最優先に外出機会を多くするよう取り組まれている。初詣やカラオケ、ペットショップの見学、100円ショップでの買い物、更には庭の草取りやバーベキューなど多様な取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	11月までは駐車場にジュースの自動販売機を設置し、いつでも買えるようにしていた。また、買い物などではスタッフと一緒に支払いを行うよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、部屋から電話が出来るよう子機を用意している。また、年賀状等季節のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りや季節ごとの換気、フロアでは音楽を流したりしている。	旅館をイメージした作りで、間接照明や床暖房が取り入れられ、入居者には落ち着いた雰囲気の中で居心地良く過ごしていただいている。入居者と職員が手作りした写真集が随所に飾られ、オープンキッチンからは食事作りの様子が伺われ、生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fにはウッドデッキ、玄関外にはベンチがあり、外気浴を兼ねることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で慣れ親しんだものの持込みは可能で、写真や絵を飾ったり、仏壇を持ち込まれている方もいる。	火元になるもの以外は原則自由に持ち込みいただき、それぞれにこだわりのある居室が作られている。入居時、家族にも「自分の部屋を作ってください」と話され、手作りの人形を飾ったり、新聞購読をするなど居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に本人の表札を付け、トイレも分かりやすいよう掲示している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームのどか

目標達成計画

作成日: 令和 2 年 3 月 21 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所の環境から、火災への対応が優先されるため消防訓練を行っているが、地震や台風などの自然災害に対する訓練や話し合いを行い、防災をより良いものにしていく。	災害以外の自然災害に対する対策の確立、実施。	・非常災害マニュアルの見直し ・避難を想定した訓練の実施	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。